



感染症とたたかう

第5号

2016年
4月発行

発行：国立大学法人 長崎大学 監修：長崎大学病院 感染制御教育センター長・教授 泉川 公一
お問い合わせ：長崎大学熱帯医学研究所 〒852-8523 長崎市坂本1丁目12-4 TEL：095-819-7800（代表） FAX：095-819-7805

● 私たちの暮らしと感染症 ●



小さな子どもに多い麻疹と風疹 入学前までにワクチン接種を2回

麻疹（はしか）と風疹（三日ばしか）は、どちらも子どもに起こりやすい感染症で、発疹が出たり、熱が出たりと症状も似ています。流行時期も、麻疹は冬の終わりから春にかけて、風疹は冬から初夏にかけてと重なっています。しかし、原因となるウイルスが異なるうえ、熱の出方や口の中の症状、耳の下のリンパ節の腫れなどに違いが見られます。

麻疹も風疹もワクチンの予防接種によって、感染しても症状を抑えることができます。1歳を過ぎた子どもは、定期予防接種として麻疹風疹混合ワクチン（MRワクチン）を接種できます。そして、小学校入学前までにもう一度接種することで、ワクチンの効果は大きくなります。

麻疹 「はしかのようなもの」と侮るのは危険なことも

麻疹（はしか）は麻疹ウイルスの感染による小児に多い急性の感染症で、感染経路は空気感染、飛沫感染、接触感染です。非常に強い感染力を持っており、免疫を持っていない人が感染するとほぼ100%発症します。一方、一度感染して発症すると一生免疫が持続するとも言われています。

感染すると、約10日後に38℃前後の熱が出て、咳や鼻水、くしゃみなど風邪のような症状が現れます。次に口の中に小さな白い斑点が出ます。2～3日熱が続いた後、39℃以上の高熱とともに

赤く少し盛り上がった発疹が体中に現れます。これらの症状は10日～2週間程度で治まります。

多くの人がかかることから「誰もが一度は若い時期に経験すること」のたとえとして「はしかのようなもの」という表現があります。しかし、肺炎や中耳炎などを起こすこともあり、また1000～2000人に1人の割合で脳炎が発症すると言われています。子どものときに麻疹に感染せず予防接種もしていない人が、成人になって感染すると、肺炎や脳炎など重症化することもあり、侮ってはいけません。

麻疹は感染力が強く手洗いやマスクでは予防できないので、ワクチン接種が有効な予防法となります。ワクチン接種によって95%以上の方が免疫を獲得でき、接種を2回受けることで1回目の接種で免疫がつかなかった人にも免疫をつけることができます。現在は、1歳児と小学校入学前1年間の幼児を対象とする2回接種制度が始まっています。長崎市では、麻疹との混合ワクチン(MRワクチン)の接種を無料で受けることができます。

麻疹 妊婦さんは感染に十分注意 男性もワクチン接種を

麻疹(三日ばしか)は麻疹ウイルスによる感染症で、発熱と発疹、リンパ節の腫れという3つの症状が特徴です。主な感染経路は飛沫感染と接触感染です。潜伏期間が長く、感染してから14～21日経って、まず顔に発疹が現れ、同時に発熱します。その後、発疹は全身に広がりますが、3～5日で消え、熱もあまり高くなることなく2～3日で平熱になります。そのため「三日ばしか」とも呼ばれていますが、数千人に1人の割合ですが重篤な症状を起こすこともあります。



麻疹で気をつけたいことは、妊娠初期にかかるとう胎盤を介して母親から胎児にウイルスが感染し、生まれてくる子どもが先天性心疾患などの先天性麻疹症候群になる可能性があります。わが国では、妊娠中に麻疹に感染した胎児10万人あたり1.8～7.7人の頻度とされています。このためワクチン接種による予防が重要で、女性だけでなく男性も心がける必要があります。

麻疹はMRワクチンの接種が無料で受けられるようになって以来、国内ではほとんどみられなくなりましたが、2012～2013年に、20～40代の男性を中心に全国で大規模発生しました。国立感染症研究所によると、毎年全国で0～2例の報告しかなかった先天性麻疹症候群が、2012年～13年9月までに18例報告されました。これは、女子中学生を対象に麻疹ワクチンが集団接種されていた一方、同年代の男性は個別接種であったため接種率が低く、免疫を持っていない人が麻疹に感染し、それがパートナーに感染したためと推測されています。麻疹に限りませんが、ワクチンは自分の身を守るためだけでなく、周囲の人に病原体を感染させないためにも重要な予防法だということを知っておいてください。

次号(2016年5月号)では
「ヘルパンギーナ」を取り上げます。